

針 供 養 塔

八 日 市 場 を 歩 く

「針供養」という言葉は最近あまり聞かれなくなりました。2月8日、または12月8日に使えなくなった縫い針を供養のため寺社などに納めることをいいます。

天神山公園に隣接する天満宮境内に高さ約2mの針供養塔があり、上の部分の小さな穴に針が入れられます。正面に「奉納 針 祈 念 嚴 修 之 伎」と刻まれ、裏面から当時八日市場町内にあった武田裁縫女学校、八日市場ドレスメーカー女学院など7つの関係者が昭和27(1952)年1月に造立したことが知られます。

『八日市場市史 近現代編』などによると、明治30(1897)年に開設された私立女子裁縫伝習所が後に鍼泉女学校と改称し、裁縫、織物の2学科に



天満宮境内にある針供養塔

音楽科、生花科、機織科、染色科などもでき、県や郡からの補助金もあり施設の増築が図られ、匠瑳郡内唯一の女性の教育施設として設備が充実したとされます。同校は供養塔に財団法人鍼泉女学校とあります。

明治43(1910)年には女子裁縫学校・私立庚戌女学校、大正2(1913)年に私立福岡裁縫女学校が地域住民の自発的熱意により設置されました。

市域周辺でも大正から昭和初期にかけて着物・和装に洋服・洋装が混在するようになったようで、供養塔に刻まれた大川和洋装学園、立花洋裁学園、蒼空衣芸学園、宇野ドレスメーカー女学院などの名称からもその変化をうかがい知ることができます。

かつて、こうした裁縫学校やドレスメーカー女学院で裁縫技術を学んだ人に聞いた話では、ほとんどが徒歩で八日市場まで通ったそうです。

針供養塔が建てられてから70年余り経過した現在、これらに関する資料は乏しく、その実態を知ることができませんが、この塔が八日市場に存在した裁縫学校の名のみを伝えています。

(市文化財審議会委員・

依知川雅一)

閩 秘 書 課 広 報 広 聴 班

☎ 73・0080